瑞穂中だより

Ｎｏ．１４
令和７年９月１６日
雲仙市立瑞穂中学校
校長　中村　健太郎

学校だよりを含む様々な情報がホームページから閲覧できます。QRコード･もしくは「雲仙市立瑞穂中学校」で検索を！

学 校 教 育 目 標　「ふるさとを愛し　心身ともにたくましく　主体的に学ぶ生徒の育成」
２つのキーワード　「自他共栄（じたきょうえい）」･「自己実現（じこじつげん）」

戦後80年の節目に「平和」を考える

８月９日（土）は、戦後80年となる県民祈りの日でした。本県では毎年、原爆で亡くなった人への追悼と、世界平和を願って黙祷を捧げています。今年は節目の年ということもあり、メディアでも多くの特集番組や特集記事が組まれていました。本校でも人権平和実行委員を中心に、平和集会に向けての学習を進めてきました。大雨により8月9日（土）の登校が中止となりましたので、8月26日（火）に事前に録画しておいた各学年からの発表動画を視聴し、9月１日（月）に平和宣言を行いました。

瑞穂中学校平和宣言

人は誰もが一人の人間として尊重されるべき存在です。私たちは皆、差別や偏見を受けることなく、しあわせに暮らす権利があります。私たち瑞穂中学校の生徒一人一人は、平和で誰もが安心して生活できる世の中を築いていくために、次の3つのことを宣言します。

一　私たちは、誰もが幸せに生きていけるように自己中心的な考えを捨て、差別を見逃さず、個人を尊重する世界が現実を目指します。

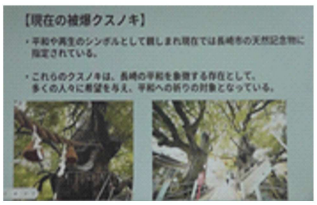
一　私たちは、世界で起こっている争いを自分のこととして真剣に考え、そして、人権を無視し、簡単に人の命を奪い取る行為を許しません。

一　私たちは、他の人を理解しようとする心を持ち、いじめを許さない誰もが安心して過ごせる笑顔いっぱいの学校を築くために、一人一人が責任をもって行動します。

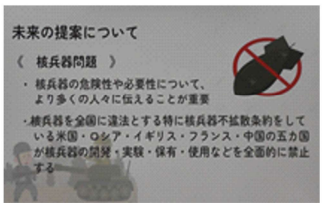
物語：かよこ桜

動画内で発表する生徒

発表スライド：被爆クスノキ



発表スライド：未来への提言



１～3年の各学級から「原子爆弾の開発や被害」、「日本の加害」、「戦時中の生活」、「世界の紛争」、「未来予測」についての発表がありました。また、「かよこ桜」の朗読を聞きました。

みなさんは「平和」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか？家族と一緒にご飯を食べること。友だちと笑い合って過ごすこと。安心して学校に通えること。こうした何気ない日々は、実はとても大切で、かけがえのない「平和」の姿といえます。

しかし今、この時も、報道等であっているように、世界のどこかでは、戦争や紛争が起こっています。住む場所を追われたり、学校に通えなかったり、命の危険にさらされたりしている人々がたくさんいる状況です。

日本も、かつては戦争に加わっていました。その結果、多くの命が失われ、町や家が焼かれ、何もかもを失った人たちを生み出しました。私たちは、そのような歴史の上に今を生きています。

このような過去を踏まえて、未来に責任を持つことの大切さを、第２６４代ローマ教皇・ヨハネ・パウロ2世は、日本に訪れた際、このような言葉で語っています。

「戦争は“人間の仕業”です。過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。戦争と核兵器の脅威にさらされながら、それを防ぐための、各国家の果たすべき役割、個々人の役割を考えないで済ますことは許されません。平和達成のために、みずからを啓蒙（けいもう）し、他人を啓発しようではありませんか。再び戦争のないように力を尽くそうではありませんか。」

この言葉は、平和を守る責任が、国や政府だけにあるのではなく、私たち一人ひとりにもあることを教えてくれます。たとえば、みなさんの日々の行動の中にも、平和をつくる力があります。友だちを思いやること。違う意見に耳を傾けること。困っている人に手を差し伸べること。そして、誰かを傷つける言葉や態度を慎むこと。これらは争いを遠ざけ、平和をつくっていく力になります。

未来をつくるのは、私たち一人ひとりです。県民祈りの日が、改めてみなさんが平和について考えるきっかけに、自分の行動を変えるきっかけになることを願っています。